

鉄鋼スラグ 農地を復興 除塩効果確認！

2013年(平成25年)5月17日 金曜日 14版 経 済 10

*1) 鉄鋼スラグとは、鉄鉱石と石炭から鉄鋼を製造するプロセスにおいて、鉄以外の成分や成分調整のための添加される精錬剤に由来し副次的に生産され、産出する工程により高炉スラグと製鋼スラグがあります。セメント用、路盤材、土木用、コンクリート骨材、肥料等の用途に、生産量のほぼ全量を販売・有効活用されています。

*2) 転炉スラグは、高品質な鋼を製造するため成分調整を行う製鋼工程中の転炉工程において、石灰等の精錬剤に由来して産出します。転炉スラグ肥料は、CaO(石灰)とSiO₂(ケイ酸)を主成分とし、MgO(苦土)、FeO(鉄分)やP₂O₅(リン酸)、MnO(マンガン)やB(ホウ素)といった肥料成分を含有しています。

＜そうまプロジェクト概要＞

相馬市では、津波被害を受けた農地約1,100haのうち、これまでに復興を果たした農地は140ha程度で、2013年度以降も復興活動が継続されます。これまで国や福島県の復興事業による除塩のための石こう資材としては、石こうや炭酸カルシウムが用いられ、転炉スラグ肥料の利用は限定的です。そこで、2013年度に50ha程度の被災農地で転炉スラグ肥料を活用した除塩対策の有効性を実証する「そうまプロジェクト」を計画いたしました。

主催者：東京農業大学、相馬市、JAそうま

実施時期：2013年度

対象農地：福島県相馬地域の水田 約50ha

施肥肥料：てんろ石灰、ミネカル等、計約500トン

実証ポイント：現状は復興指定資材ではない転炉スラグ肥料について、より迅速・効果的な資材としての有効性を大規模に確認

鉄鋼スラグ 農地を復興

新日鉄住金と東京農大



津波をかぶった農地に「鉄鋼スラグ」をまく地元農家＝福島県相馬市

福島で除塩効果確認

鉄をつくるときに出る副産物「鉄鋼スラグ」が、東日本大震災で津波をかぶった農地の再生に役立つ。海水を含んだ土を中和し、塩分を取り除く効果があるから。福島県相馬市で始まった除塩計画に使われ今春には50haの水田を耕作できる土地に変わった。

相馬市で4月下旬、農家ら約20人が海岸から3kmの水田に集まった。津波の残りを片付けて整地した地面にトラクターを走らせ、灰色の粒状の鉄鋼スラグをまいた。

市と地元のJAそうま、東京農業大学が今年度から本格化させた農地再生の「そうまプロジェクト」。被災後初めて田植えをする農家の佐藤紀男さん(68)は「また農業ができるようになり、生きがいになる」と喜んだ。

鉄鋼スラグには鉄分や石灰が含まれているため、塩分を含んで酸性化した土地にまくと中和できる。東農大が昨年5月、同市内の水田1・7haに約20tをまいて実験した。除塩効果があったことを確認し、田植えをした。秋に収穫したコマメは、味も収量も以前と変わらな

らなず、農地再生を実証できた。

新日鉄住金が実験に協力し、鉄鋼スラグを無料で提供した。今年度始まった「そうまプロジェクト」にも、千葉県と大分県の製鉄所から出た約450tを送った。

プロジェクトは今後も続く見込みで、必要な鉄鋼スラグはすべて無料で提供するという。

農林水産省によると、津波の被災農地は相馬市内で約1千haある。青森県から千葉県までの太平洋沿岸6県だと計約2万1480haに及ぶ。農地の再生には、土を入れ替える方法もあるが、費用と手間がかかる。鉄鋼スラグを使うと「安く、短期間で再生できる」(新日鉄住金の担当者)という。

(大和田武士)

＜朝日新聞朝刊 2013年5月17日抜粋＞

協材碎石株式会社

〒 476 - 0015 愛知県東海市東海町 5 丁目 3 番地 新日鐵住金(株)名古屋製鐵所構内

Tel : 052-601-1677 / Fax : 052-601-3438 (担当 :)

